



中堅が充実の2泊3日 グループ討議、講演、共生の森など

パチンコ・パチスロ新時代に求められる、遊技産業の新しいリーダーの養成をめざして、日遊協主催「第3回遊技産業マネジメント・カレッジ」が9月3～5日の3日間、埼玉県嵐山町菅谷の国立女性教育会館で開かれた。全国28企業から52人が研修生として参加した。なお、過去の参加者は第1回=55人(25企業)、第2回=47人(25企業)だった。

研修の概要
【第1日】9月3日(木)
開校式/オリエンテーション等/グループワーク
【第2日】9月4日(金)
グループワーク/プレゼンテーション/
特別講演 ㈱マルハン代表取締役社長 韓裕氏
第2期高原の風メンバーによる発表
懇親会(優秀グループの表彰式・業界リーダーたちと交流)
開校式
【第3日】9月5日(土)
共生の森での社会貢献活動/入浴・昼食・閉会

9つのグループに分かれて討議を続けた研修生たち



会場の国立女性教育会館の前で勢ぞろい

今回の研修の基調テーマは「パチンコで世の中を元気にする!」。研修の対象は遊技産業に携わる中

回の植樹が行われた「共生の森」(同町花見台)に場所を変え、研修生たちは下草刈り、クイ打ちなど社会貢献活動に汗を流した。

仲間で大きな輪を作れ 深谷会長



深谷友尋 会長

【第1日】9月3日
午後1時の開校式。篠原弘志専務理事が「研修生の皆さんは、この3日間の研修を通して真摯に議論していただき、それぞれ大きな成果を心に秘めて職場に帰っていただくよう期待します」と開校の辞を述べた。

深谷友尋会長は「志を立てれば必ず道は開けるといいます。諸君も志を持ってこの産業に入社されたと思います。それぞれの夢を実現するよう、このカレッジで研鑽を深めてください。人間という言

堅管理者で、ホールは店長、マネージャー級、遊技機メーカー・販売等は部長級。参加者は日遊協会員を中心に、ホール33人(16企業)、遊技機メーカー10人(7企業)、販売2人(1企業)、その他7人(4企業)だった。このうち2人は非会員企業からの参加だった。

パチンコで世の中を元気にする

研修は2泊3日の合宿形式で行われた。最初の2日間はグループワークとプレゼンテーション、特別講演、懇親会などで構成された。研修生たちは業界が直面する問題を共有し、明日の夢を語り合い、業種を超えた人脈形成を図り、業界のリーダーたちと親しく意見を交換した。

3日目は、日遊協20周年記念事業の一つとして、昨年11月に第1



「明日の産業を創る委員会」
知念安光 委員長



二瓶正之 講師

葉は「人」の「間」と書きます。今日52人の人たちが集ったわけだから、各人はぜひ51人の仲間と名刺交換して、職場に帰ったら51人と「そっちはどうだ」「こっちは今こんな調子だ」とメール交換を続けてほしい。「人と人との間」はつまり「ご縁」ということです。「ご縁」を大切に、研修の仲間同士で大きな輪をつくってあげれば、遊技産業がより発展していくことは間違いなくと思います」と激励した。

このあと、52人の研修生は9班(5〜6人)に分かれ、基調テーマの「パチンコで世の中を元気にする!」を踏まえてグループワークの議論に入った。講師は人間力経営総合研究所・二瓶正之所長で、随所で発想法の基本、ディスカッションの仕方などを講義した。グループワークは午後いっぱい続けられ、夕食のあと各フロアの談話室を使って再開され夜更けまで議論が続けられた。

第3日ボランティア名簿

3日目、共生の森整備に出動したボランティアたち（社会貢献・環境対策部およびボランティア派遣隊 敬称略）

- 総隊長 知念安光
整備班隊長 有川裕之
副隊長 薛 博夫・平岡久明
1班=岩戸弘二・阿施行行・鈴木雅人・杉本健太郎・白鳥学・宮原卓美
2班=相田幸一・横山真干・金峻培・重松寛子・松本正行・櫻井暢成
3班=天野泰信・伊藤和彦・滝澤英司・岡本亮太・江崎弘一
4班=渡辺幸男・鈴木健之・荒川維久・栗田健介・宮原信重・山際栄児
5班=正木 敬・宮原卓美
6班=西岡隆昌・唐沢宏之・泉武志・八島健一・岩丸宝五・中西洋一
7班=石井浩樹・殿岡悠里・伊藤博和・横山慎太郎・長谷川雄一
杭打班隊長 白石良二
副隊長 茂木欣人
8班=橋本眞治・大木慎一・松井公司・馬宮正樹・菊池哲也
9班=加藤雅也・野瀬雄平・野月正浩・須田芳治・茅場永守
予備班=岡林克彦・湯川和彦・原秀次・大和田敏男



共生の森で大ガマを使って下草刈り



クイ打ちに汗を流す



談笑する吹浦忠正理事、阿部恭久、山田久雄両副会長（左から）



身ぶり手ぶりで熱心に討議



ホッと一息の懇談会でにぎやかに

韓裕マルハン社長が講演
一人ひとりの本気が変える

【第2日】9月4日

午前7時半に朝食。午前9時からグループワークが再開され、午後のプレゼンテーションに向けて、昼食まで約3時間をかけてまとめの作業に入った。
午後2時半から、各班が5分ずつの持ち時間で、それぞれの提案のプレゼンテーションを行った。最後に、各班のメンバー、ゲスト、深谷会長以下日遊協幹部らによる投票が行われた。

このあと特別講演にゲストの(株)マルハン・韓裕代表取締役社長が登壇し、「会社を変える、業界を変える」と題して、同社で取り組んでいる「人材活性化プロジェクト」を中心に映像を使いながら講演した。韓社長は「一人ひとりの本気が必ず世の中を変えていく」「まずマルハンという職場が変わり、そこに参加している個人が変わり、その延長線上で業界が変わっていく」と、「人のマルハン」を貫く考え方と実践を熱く語った。(韓社長の特別講演要旨は10〜14

ページに)

第2期「高原の風」が提案を発表

続いて、昨年の第2回遊技産業マネジメント・カレッジの金賞、銀賞受賞者から選ばれた第2期高原の風プロジェクトのメンバー6人が、約1年かけてまとめた活動報告を行った。この中で、パチンコ・パチスロ業界として優秀な人材を獲得し、同時に若い人(大学生)に業界のイメージアップを浸透させるため、業界合同セミナーの開催などが提案された。(第2期高原の風プロジェクトの発表要旨は8〜9ページに)

幹部らと和やかに談笑

午後6時から近くのホテルに会場を移し、阿部恭久副会長の挨拶、山田久雄副会長の乾杯の発声で立食パーティー形式の懇親会が始まった。ゲストの韓(株)マルハン社長、日遊協理事たちも参加した。共生の森の地元・嵐山町の岩澤勝町長が会場を訪れ、研修生たちにエールを送った。韓社長や日遊協幹部を囲んで談笑する若い研修生たちの輪がそこかしこにできた。

懇親会の最後に、午後のプレゼンテーションの成績発表が行われた。金賞はD班(企画タイトル「Eがあいさつし、寄居林業事務所の見富篤部長が、大ガマの使い方、ハチ・ヘビへの注意などをアドバイスした。夏の終わりの強い日射しの中で、埼玉森林サポータークラブの人達をリーダーに9班に分かれて、作業に入った。

下草刈りは森の斜面を一面におお雑草を払うように刈り取り始めたが、すぐに汗びっしょり。池に落ちる危険をなくすクイ打ちも汗まみれの作業となった。しかし、大部隊が集まっただけに、予定の午前11時には、森の雑草もきれいに払われた。

石原康光さん(フシミコーポレーション)は「なかなか大変ですけど、終わるとさっぱりしていい気持ちですね」といい、深澤正則さん(グロリーナスカ)は「歳を取ってからも、こういう森づくりなんかいいかもしれないですね」と初めての経験を振りかえった。

作業終了後、庄司孝輝副会長があいさつし、白石良二ボランティア派遣隊総隊長が「子供達が楽しめる森づくりへ10年がんばりましょう」とゲキをとばした。一行は、近くのホテルヘリテイジで温泉に入ったあと昼食をとり解散した。

117人の大部隊で一気に「共生の森」で下草刈り、クイ打ち

【第3日】9月5日

午前9時には、共生の森(嵐山町花見台)に続々と下草刈り、クイ打ちのメンバーが集まってきた。マネジメント・カレッジ研修生43人、到着したボランティア派遣隊56人に日遊協役員など、総勢117人の大部隊となった。池のほとりに集まったメンバーに知念安光明日の産業を創る委員会委員長

第3回マネジメント・カレッジ
受講者リスト グループ別

Table with 4 columns: 参加者 (Participant), 企業名 (Company Name), 業種 (Industry), and Class (A-I). Lists names and companies for each class.



銀賞を獲得したF班のメンバー

にクリーンなイメージのタレントを起用したCMを放送②ホールで働く人をイメージアップさせるテレビドラマや映画の制作(例えば、映画「おくりびと」で納棺師や葬儀業界にスポットライトが当たったように)③ホールで働く人をメーキングしたフリーペーパーの制作。ホールでの取り組み①ホール全社員に携帯電話を支給し、職場のコミュニケーションを高める②ホール従業員の家族に職場を見学させて理解を深めてもらい、従業員モチベーションアップにつなげる③ホール従業員と家族が遊技機

や機械設備メーカーの工場を見学し、パチンコ産業と社会とのつながりを理解し、誇りを感じてもらう。【効果】ありのままの業界の姿を正しく知ってもらうことが、イメージアップにつながる。これからの業界は1人の100歩より100人の1歩だと思える。業界就業人口は44万人といわれている。44万人が勇気を持って1歩を踏み出せば、業界全体とその家族が元気になり、お客様にいいサービスができる。お客様が元気になれば、そこから日本全体が元気になると確

信する。その他の班の提案タイトル A班「大解放プロジェクト」 B班「生き甲斐」 C班「パチンコが日本を『キレイ』にする」 D班「ユーザーが求める真のサービスの提供」 E班「きつかけはトイレから……」 F班「人類パチンコ補完計画」



金賞に輝き喜びのD班のメンバー

【提案内容】 ①立ちパチンコ立ってプレーすることで軽い運動になる。立ち飲み、

【効果】 ホールで健康グッズなどを活用してもらい、メタボ症候群の人を減らし、現代人を健康にする。「あなた、最近太り気味よ。ホールに行ってみたら？」と奥さんがご亭主をせつづくくらい、ホールは健康志向の健全な場所としてイメージアップが図れる。省エネに貢献すること、地球温暖化防

【提案内容】 業界全体の取り組み①JRA(日本中央競馬会)の広告のよう

金賞・銀賞の企画案 「パチンコで世の中を元気にする」の提案 「ECOホールで」が金賞 銀賞は「3つのP」をつなげて

金賞ⅡD班 「ECOホールで人と地球を元気にする！」

【目的】 ホールに来たファンに健康になってもらい、パチンコ業界のイメージを健全化させ、世の中、

さらには地球を元気にさせる。 【現状】 今の世の中はすべてにわたって元気がなく、気がかりなことばかりが多い。例えば景気、現代人の健康、そして地球環境などだ。パチンコに限っても、「パチンコに行く」という行為に対して一般的に不健康なイメージがまだある。ホールは禁煙・分煙には及び腰だ。省エネ活動も他業種と比べて遅れている。

立ち食いと同じイメージで気軽にプレーができる。30分ぐらいの勝負になり、のめり込みには至らない。 【現状】 業界に対するイメージが悪く、とくにホールの場合、社員が結婚の障害になったり、アパートを借りられないケースもある。家族の理解も得られていないとはいえない。だから働く本人も誇りが持てない。ホール職場では仲間意識が薄く、従業員全員が顔を合わせる機会が少ない。

【目的】 パチンコ・パチスロ業界への社会的認知度を上げ、業界に働く人たちに自信を持って働いてもらう。

銀賞ⅡF班 「eP(Pachinko・Pride・Project)」

【目的】 パチンコ・パチスロ業界への社会的認知度を上げ、業界に働く人たちに自信を持って働いてもらう。